

日本点字普及協会 事務局だより 第5号

(2015年1月12日)

11月1日のイベントと、第3回理事会のご報告

副理事長 高橋 恵子

1. 11月1日のイベントについて

「サイトワールド 2014」が昨年11月1日(土)～3日(月)、墨田産業会館サンライズホールにおいて開催されました。日本点字普及協会では、日本点字制定記念日の11月1日、「今日(11月1日)は、日本点字124歳の誕生日」をテーマに掲げ、9階会議室1・2を会場に、午前10時30分から12時30分までは講演会を開催し、引き続き12時30分から16時30分までは、体験会・機器展示・相談コーナーを開設しました(協力:視覚障害者支援総合センター)。

以下、当日配布したプログラムに従って講演の要旨を紹介し、合わせて体験・機器展示会場の様子をお伝えします。

講演1 「点字大好き人間のツイート」講師・岩上義則氏(日本盲人社会福祉施設協議会常務理事、霊友会法友文庫点字図書館館長)

講師プロフィール:1941年生まれ、石川県出身、1960～1962年北陸放送専属歌手、196～2011年日本点字図書館出版事業部長・副館長・館長、2011年～現職

住職夫人の強い勧めのお陰で石川県立盲学校へ入学、「1学期終了時には点字の読み書きは、ほぼ現在のレベルに達していた」という冒頭のお話には、同じ点字使用者としてまず大変驚きました。また、「点字に係わる仕事を50年間続けられた喜びと苦勞」「大量の資料を読むためには決まり文句や予測可能な文章は飛ばし読みがこつ」というお話には、共感を覚えました。さらに、「墨字に取り組んだ執念と六点漢字との出会い」「ブライユ点字1行目の秩序と思いに触れて」などへと話題は広がり、「点字文化は絶対に無くすことはできない」と締め括られましたが、予定時間を超えての熱弁でした。

講演2 「点字で拓けた第二の人生」講師・渡辺寛子氏(福島県立盲学校 高等部国語科教諭)

講師プロフィール:1969年生まれ、千葉県出身、福島市在住、大学卒業後、千葉県、福島県の高校に勤務、現在は、福島県立盲学校高等部国語科教諭

まず、「見えていたころ」のお話から始められ、「先天性緑内障、視力不明の私が地域の小学校に入れたわけ」「黒板は捨てて、教科書に目をくっつけて、耳でノートをまとめた学生時代」「早稲田大学点字会での活動が触読の糧に」「千葉の農業高校から福島へ永久就職」と様々なエピソードを交えながら進めてくださいました。視力を補う工夫を重ねながら勉学に取り組まれただけでなく、大学の点訳サークルではボランティア活動に打ち込まれた様子が窺われ、感銘を受けました。そして、「触読年

齢 10 歳の軌跡」という失明後のお話が展開します。「国立塩原視力センター生活訓練を経て」「盲学校最初の授業は『去年受けた』点字訓練」「子供たちの夏休みの課題図書が点字で読める」「表音文字での弁論指導が強みに(第 77 回全国盲学校弁論大会、福島県勢として初優勝)」「エーデル開発者藤野稔寛氏との点字絵本コラボ」「山形県立米沢工業高校の点字学習機開発に協力」「点字付き百人一首カルタ取り体験」「日本点字 124 年記念と称して点字練習問題を校内メーリングリストで配信中」などと点字を軸に据えた活躍ぶりが披露され、「点字導入した地域で学ぶ子供たちの夢に支えられて」と締め括られました。中途視覚障害者の方だけでなく、点字普及の任を担う私たちにとっても、大いに勇気を与えられた講演でした。

体験・展示・相談コーナー

(1) 体験コーナー:①Lサイズ点字触読体験 ②凸面点字器試作品使用体験 ③インターネットを使った点字学習体験

(2) 展示コーナー:①点字を書くいろいろな機器 ②Lサイズ点字プリンター ③点字サインの実物、など

(3) 点字何でも相談コーナー:①中途視覚障害の方の点字学習希望 ②点訳ボランティア希望、など

当日は小雨が降り続くあいにくの天候でしたが、講演会には 110 名を超える方々が参加され、講師お二人の点字に対する熱い思いに触れ、点字の大切さを共有することができました。また、体験会・機器展示等にも多くの方々が来場され、対応に当たったスタッフが、てんてこ舞い状態の時間帯もありました。特に、凸面点字器への関心は高く、手頃な価格の製品を待ち望む声が多く聞かれました。なお、相談コーナーにご協力いただいた日本点字図書館の松谷詩子様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

2. 第 3 回理事会について

イベント終了後の 17 時過ぎから 18 時過ぎまでの間、9 階会議室 1 において、理事 5 名、監事 1 名出席の下、第 3 回理事会を開催しました。

冒頭、イベントの反省会を行い、概ね成功裏に運営できたこと、来年以降も何らかの形で点字制定記念日にふさわしい行事を開催したいことを確認しました。

以下に掲載する報告書のとおり、事業の進捗状況については藤野理事長より、また、経理の中間報告については渡邊理事より説明があり、承認しました。

(1) 事業の進捗状況について

①凸面点字器の開発

・ 9 月 27 日 (土) に企画書を携えて清田氏 (凸面点字器開発者の一人、千葉県市川

市)を訪ね、面談した(藤野、加藤、岡村)。提案内容についての理解は得られたようであるが、共同作業に関する点での反応は鈍い。催促した結果、清田氏が改善した見本を送ってくれることになっている。

・名古屋ライトハウスを通じて「だいてん丸」を製作したメーカーを紹介してもらい、同時並行で開発を進めることも検討すべきか。

②Lサイズ点字のプリントサービス

・丸紅基金に申請したLサイズ点字プリンター購入費の助成金は不採用となった見込みが高いので、にじの会の協力のもと、事業を進める方向で準備を進める。

・料金体系は「にじの会」の現行どおりとし、PRを始める。

・PRは普及協会のホームページを中心に、点字毎日、日点委のホームページに掲載をお願いします。

・Lサイズ点字の広報と、プリントサービス利用の呼び掛けのため、全国の盲学校や施設、約74か所に資料を送付する。

・9月に札幌で開催された東北・新潟・北海道ブロック点訳研修会(約300人が参加)の場でPRを行った。

(2)経理の中間報告について

26年度上半期の収支状況を参照しながら説明が行われましたが、これまでのところ、イベントに関する支出(講師謝礼・交通費・印刷代等)以外には支出はほとんどありませんでしたので、ここでは省略させていただきます。

以上
